



# うもれ木

魚津埋没林博物館広報誌

第16号

発行日：平成14年3月31日  
編集発行：魚津埋没林博物館  
印刷：魚津印刷(株)

## ふんわりつめたい ロールケーキ？



自然界の造形には、不思議なものがたくさんあります。ときには美しく、ときにはユーモラスに、私たちの目を楽しませてくれます。この写真もその一つ。これは、「雪まくり」「スノーローラー」というものです。硬い積雪の上に、柔らかく軽い新雪が薄く降り積もり、それが強い風で転がってロール状になったものです。別名、天狗の雪投げ(富山県東部)、俵雪(山形県庄内地方)などとも呼ばれています。(2001年3月、博物館敷地内で撮影)



## 蜃気楼の見える街々

学芸員 石須 秀知

魚津市は、蜃気楼の見える街として全国的に知られています。JRの魚津駅を出ると、「蜃気楼の見える街魚津」と刻まれた石碑があり、市役所や各種の施設、商店街などでもそのキャッチフレーズを目にします。そして、4月～5月を中心に、年間10数回の蜃気楼が実際に観測され、多くの見物客を集めています。ここでいう蜃気楼とは、実際の風景の上側に虚像が現れる“上位蜃気楼”のことです。



蜃気楼(平成13年5月13日)

魚津の蜃気楼の歴史は古く、その記録は、江戸時代以前までさかのぼります。1698年に駒谷散人が著した「北越軍談」中の、永禄7年(1564年)に長尾輝虎(=上杉謙信)が魚津の海岸で馬を止めて蜃気楼を見た、という記述が記録としては最も古いといわれています。この記述が真実ならば、約450年前の16世紀中ごろにはすでに魚津の蜃気楼が認知されていたことになります。

江戸時代には、現在の三重県四日市市も蜃気楼の名所として知られ、浮世絵にも描かれています。ただ、描かれているのは、ハマグリが城郭の幻影を吐き出しているような構図で、写実的なものではありません。四日市では、明

治29(1896)年以降、蜃気楼の記録は残されていませんでした。しかし、平成13年4月に、四日市市立博物館などが行なった調査で、伊勢湾対岸の石油タンクなどが伸び上がった蜃気楼がデジタルカメラで撮影され、新聞でも報道されました。もしも毎年定期的に確認できれば、江戸時代の蜃気楼の名所が復活するかもしれません。

蜃気楼の見られる地域はほかにもあります。特に北海道では、蜃気楼の記録されている場所が多いようです。網走市などのオホーツク海沿岸では、流氷が見られることで有名です。春、その流氷が沖に遠ざかる頃、陸地から暖かい風が吹き込むと、流氷が大きく伸び上がる蜃気楼が見られることがあります。これは、現象としては魚津と同じ上位蜃気楼ですが、特別に「幻氷」という名前がついています。また、



蜃気楼が確認されている場所

小樽市青少年科学技術館では、石狩湾などで蜃気楼の観測を行ない、写真撮影にも成功しています。根室市や別海町でも、蜃気楼の写真が撮影されています。札幌市の手稲山では、大雪山など山岳の珍しい蜃気楼も記録されています。北海道周辺ではまだまだ蜃気楼が確認される可能性があります。



琵琶湖の蜃気楼(橋の変形、平成12年5月30日)

北海道以外では、滋賀県の琵琶湖周辺が回数、規模とも抜き出ています。琵琶湖では毎年、魚津と同じ時期に蜃気楼がよく観測されています。琵琶湖南端の大津市では、琵琶湖大橋が複雑に変形したり、走る車が背中合わせになったり、周囲の風景も数段に重なって見えたりするなど、多様な蜃気楼が記録されています。そのほか、熊本県不知火町では、蜃気楼の一種である不知火現象が古くから知られています。町では不知火が見られる旧暦8月1日にあ

わせ、「海の火まつり」を開催するなど地域の活性化に活用されています。

さて、魚津市は平成14年度に市制50周年を迎えます。それを記念して、全国の蜃気楼の見える街から関係者を招き、フォーラムを開催します。これを出発点に、全国の蜃気楼が見られる地域との間で情報を交換し、交流を深めるネットワークづくりが考えられています。蜃気楼をキーワードとした人・地域の交流の中心地として、あるいは蜃気楼情報の発信・集約基地として、「蜃気楼の見える街」を掲げる魚津市が担う役割は大きなものになるでしょう。



\*\*\*\*\*

## 魚津市制50周年記念事業

### 「蜃気楼フォーラムin魚津2002」

開催日:5月19日(日)

会場:新川文化ホール 大ホール

内容:全国蜃気楼会議

基調講演

パネルディスカッション

特別講師:石原良純(俳優・気象予報士)

### 「蜃気楼展」

期間:5月18日(土)~5月26日(日)

会場:新川文化ホール 展示ホール

内容:全国の蜃気楼の写真など各種資料を展示

## シリーズ

## 埋没林の仲間たち ⑮

## クマシデ属 (カバノキ科)

魚津市周辺で見られるクマシデ属には、クマシデ、サワシバ、アカシデなどがあります。

クマシデは、丘陵から山地に生育する、高さ15m前後の木です。黒っぽい樹皮に縦の割れ目が目立ちます。春、小枝の先からぶら下がる軟らかい穂に花を咲かせます。雄花と雌花は別々の穂につき、雌花の穂は成長して果穂になります。果穂は多数の包が重なり合い、長さ5～10cmくらいの楕円体で、枝からミノムシのようにぶら下がって目立ちます。葉は長さ5～10cmくらいの楕円形で先は尖り、基部は円形から浅いハート形です。



クマシデの果実

サワシバはクマシデによく似ています。葉はクマシデより一回り大きく、基部はクマシデよりもはっきりとしたハート形になるのが特徴です。

アカシデは、丘陵から山地帯に多く、灰色の滑らかな幹が特徴です。果穂はクマシデより小型で、包が反って開いています。



アカシデの幹

\* \* \*

現在の魚津市内では、クマシデ、サワシバ、アカシデともに、丘陵から山地帯の随所に生育しています。

魚津埋没林では、1989年の調査でクマシデ属の花粉が出土しています。

## お知らせ

## 平成14年度の行事予定

## ☆企画展示

## 蜃気楼写真展

平成14年7月1日(月)～8月18日(日)

## “葉”展

平成14年8月19日(月)～10月31日(木)

## 写真展 魚津ナチュラルギャラリー③

平成15年1月2日(木)～3月31日(月)

## ☆ふれあい学習会

こんなにいろいろ蜃気楼 —— 平成14年 5月25日(土)

まちなかの自然探検隊(春夏編) — 平成14年 6月15日(土)

見どころあれこれ片貝川 —— 平成14年 9月28日(土)

まちなかの自然探検隊(秋編) — 平成14年10月19日(土)

つるつるつくる —— 平成14年11月16日(土)

※企画展、学習会の詳細は下記までお問い合わせください。

## ご利用案内

- 開館時間 午前9時～午後5時(入館は4時30分まで)
- 休館日 12月～3月の月曜日、祝日の翌日、年末年始(4月～11月無休)
- 入館料 ・大人(高校生以上)…510円 ・小中学生…250円
- 交通 ・JR北陸本線 魚津駅 } 下車1.5km (タクシー…5分)
- ・富山地方鉄道 新魚津駅 } (徒歩…25分)
- ・北陸自動車道魚津ICから3km車で10分

## 特別天然記念物 魚津埋没林博物館

〒937-0067 富山県魚津市釈迦堂814 ☎(0765)22-1049  
 ホームページ <http://www.city.uozu.toyama.jp/nekkolnd/>  
 e-mail [nekkolnd@city.uozu.toyama.jp](mailto:nekkolnd@city.uozu.toyama.jp)

